

2023年度 第1回 新任教員セミナー

国際文化学研究科の新任教員の研究内容を紹介・発信し学部や大学院での学術交流を促進することを目的に開催するセミナーシリーズです。

第1回は、2部構成でディストピア文学批評と近現代モンゴル史がテーマです。

日時：2023年7月7日（金） 第1部 13：20～14：20

第2部 15：10～16：10

場所：学術交流ルーム E410

—第1部— 「マーガレット・アトウッド『侍女の物語』における「女性」を考える」

講師：中村麻美（国際文化学研究科講師）

司会・コメンテーター：深町 悟（国際文化学研究科講師）

—第2部— 「翻訳により生まれたナショナル・ヒストリー

—20世紀モンゴルのヒストリオグラフィー—」

講師：橘 誠（国際文化学研究科准教授）

司会：伊藤友美（国際文化学研究科教授）

コメンテーター：衣笠太郎（国際文化学研究科講師）

※事前申し込み不要。

講師略歴

中村 麻美

リバプール大学大学院英文科博士課程修了。立教大学文学部文学科英米文学専修助教を経て、現職。主な業績として、『ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む——ディストピアからポスト・トゥールースまで』（共著、水声社、二〇二一年）、「On the Uses of Nostalgia in Kazuo Ishiguro's *Never Let Me Go*」(*Science Fiction Studies*, vol. 48, no. 1, 2021)、『マーガレット・アトウッド『侍女の物語』を読む——フェミニスト・ディストピアを越えて』（共編、水声社、二〇二三年夏刊行予定）などがある。

橘 誠

1977年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員PD、下関市立大学経済学部教授を経て、現職。主な業績として、『ボグド・ハーン政権の研究：モンゴル建国史序説 1911-1921』（単著、風間書房、2011年）、*The Resurgence of "Buddhist Government": Tibetan-Mongolian Relations in the Modern World*（共著、Union Press、2019年）などがある。

